

一学期を振り返って ～高3 フィールドワーク（横須賀市）～

7月16日（水）に、高3生対象の地歴科フィールドワークが実施されました。行き先は、神奈川県横須賀市にある三笠公園です。ここには、明治時代の1905年、日露戦争時の日本海海戦で旗艦船として活躍した戦艦「三笠」の実物がほぼ現役時の姿（一部修復・復元）で保存されています。戦時の戦闘以外にも、沈没、爆発事故にあったり、廃棄処分にされそうになったりと、いくつもの困難を乗り越え、現在まで残されてきた貴重な船です。この「三笠」は、世界三大記念艦の一つでもあるそうです。

まず初めに、映像学習を行い、当時の史料画像や再現フィルム、映画のダイジェスト版などを見ながら、日露戦争の経緯・経過、そしてその中の「三笠」の果たした役割などを学びました。その後、各自自由に艦内を見学し、司令長官室や艦長室などの船室の様子や大砲、甲板などを見学しました。

今回のフィールドワークは、100年以上も前に建造された船を実際に目にし、中を見学できるという大変貴重な経験になりました。これを通して、参加した生徒たちは、日本史でも世界史でも重要事項として学ぶ日露戦争を始めとする近代史についての知識を増やし、理解度を深めることができたのではないかと思います。

